【市長賞】感謝の心を教えてくれた安城の給食

安城東部小学校　阿部　奏絵

私には乳、ピーナッツ、くるみのアレルギーがあります。年長の頃、二歳年上の姉に、

「小学校に入ったら毎日牛乳が出るよ。」

と言われて不安になった事があります。ところが入学していざ給食が始まると、担任の先生がとても配慮をしてくれて、不安な気持ちは徐々に無くなっていきました。また、コロナ禍だったので、みんなと話しながら給食を食べるのは禁止されていました。その当時は話をしながら給食を食べて、もしアレルギーのあるものが飛んできたら不安だったので静かに食べることに安心していました。ですが、やはりみんなと話をしながら食べたいとも思う複雑な感情でした。

三年生になり、先生の勧めで初の給食当番をやってみる事になりました。しかし、まだ食事の盛り付けはできなかったので、食器の数を数えて、盛り付けの人に渡す係や箸を配る係を担当しました。自分に役割ができ、給食当番が出来ることが、とても嬉しかったのを今でも覚えています。この一年は、給食当番ができたという去年とは違う楽しさを味わえました。

そして迎えた四年生。担任の先生はとてもアレルギーに気を遣ってくれる優しい先生でした。牛乳を飲んでいる子がこぼした時はすぐ拭いて、牛乳がついたティッシュなどを捨てる専用のゴミ箱まで作ってくれました。お陰でとても安心して一年間を過ごせました。

高学年になり、クラスメイトも変わって、私のアレルギーを知らない子も増えたけれど、給食が始まった日に先生がみんなに説明をしてくれて、クラスのみんなもそれに文句など言わずに気をつけてくれたので、とても安心して過ごしています。

またアレルギーのある私が、六年間で一番心に残っているメニューがあります。それは『かきたま汁』です。実は私は、卵のアレルギー症状が出る時があり、小学校三年生まで、卵が食べられませんでした。少しでも克服したい思いから、病院や家で少しずつ卵を食べる負荷試験を繰り返し、卵のアレルギーを治すことができました。しかし、その後、家で好んで卵を食べることはあまりありませんでした。そんな中、給食で『かきたま汁』を食べて、卵っておいしいと思うことができました。卵が細かくて食べやすく、味も少し濃い目で美味しく、卵を抵抗なく食べられました。私はこのかきたま汁のお陰で、卵料理が好きになり、今ではおかわりするほどになりました。この給食のかきたま汁がなければ今の私が卵を好きになることはなかったと思います。

私にとって給食は、楽しくて美味しいだけではなく、人への優しさを教えてくれた大切な宝物です。給食でみんなに気遣ってもらった分、みんなに優しさをお返ししたいです。